

環境学習施設立ち上げに向けての 3R 協働活動プラットフォームの歩み

文責:時田 祐佐

<全体総括>

1. 令和元年 12 月末日現在、今後の環境学習施設に関する市民との意見交換会「3R 協働活動プラットフォーム」の開催予定はない。
2. 今までの経緯からみると、
 - ① 3R 協働活動プラットフォーム立ち上げ委託事業者 NPO 法人東海道・吉原宿が主催した意見交換会は、平成 28 年度分として 2 回開催されたが、施設の紹介程度の内容のみで、何の成果も上がらないまま立ち消えとなった。
 - ② 市主催の意見交換会は、平成 29 年度 2 回、平成 30 年度上期 3 回、下期 4 回の計 7 回開催され、「環境学習施設の概要」、「オープンに向けての活動計画づくり」、「ボランティア登録制度」等の紹介が行われ、それらに関する市民の意見を聞いてはいるが、その後の進展が全くないのに、令和元年度分はいまだに 1 回も開かれていない。
 - ③ 市民から提案された「推進体制」に基づき市民の間の意見集約を目指して設立された「みんなの会」は、計 24 回もの意見交換会が開催されたが、参加市民が少なく、新しい環境学習施設できるということを市民にもっと広く知ってもらおうという数種のイベントの企画・実施を行うことはできたが、その他の点では当初掲げていた各種の目的に対し、確たる成果はほとんど上げられていない。
 - ④ 環境学習施設の「優先交渉権者」のクリーン工房が主催する運営活動 WG は、「施設の運営」と「施設での活動」の 2 つの課題についての意見交換会であったが、平成 30 年度「施設での活動」につき 6 回の意見交換会を開催し、ほぼ所期目的は達成した。
しかし、残りの「施設の運営」については、指定管理者に指名されてからということで、令和 2 年 6 月市議会での指名決定後まで詳細検討は持ち越しになるという。
 - ⑤ いずれにしても、どの意見交換会も市民の参加者が少なく、施設オープン時、とても市民主体での運営など望むべくもないと思われる。
3. 以上の結果からみると、令和 2 年 6 月市議会で「然るべき企業・団体」が環境学習施設の指定管理者に指名されるまでは、新たな展開は期待できないとみるべきである。
 - ① 新環境クリーンセンター併設の環境学習施設のオープンは令和 2 年 10 月と決定しているので、施設の指定管理者決定後から 3~4 カ月でオープンに向けての準備ができるのか？
 - ② オープンした環境学習施設を市民主体で、
 - だれが(ボランティア、市民団体、…)
 - なにを(事業プログラム_施設での活動)
※事業プログラムについては、運営活動 WG にて大略作成・確認されている。
(この部分が今までの唯一の決まった部分か?)
 - どのように(施設の運営)していくか、まだまだ決まっていないことは山ほどある。
特に、ここで活動していただく市民主体の個々の事業プログラム毎のボランティア・市民団体を本当に確保できるのか、また、環境クリーンセンター(焼却炉)側をも案内するボランティアを育成できるのか、全く疑問である。

〈これまでの経緯〉

1. 3R 協働活動プラットフォームの立ち上げから意見交換会開催へ(2016/9～2017/3)
 - ① 2020年10月オープンの新環境クリーンセンター併設の環境学習施設を市民主体で運営していこうということで、まずは、2016年8月、立ち上げ支援業務委託事業者の募集があり、2団体の応募があった。
 - ② 2019年9月、プラットフォーム委託事業者がNPO法人東海道・吉原宿に決まり、平成28年度内に2回の意見交換会が開催された。
 - ③ 本会議では、アドバイザーとして、豊田市の環境学習施設「eco-T」(エコット)の立ち上げに携わった坂本竜児氏を迎え、まずは、参加してきた「市民の自己紹介」、「環境学習施設を建設する企業団の紹介」に始まり、「環境学習施設の概要」、「先行事例の紹介」等の勉強会を行うことにより、参加者の情報共有が図られた。

2. プラットホーム委託事業者 NPO 法人東海道・吉原宿、平成 29 年度当初より、プラットフォーム事務局としての運営活動を停止
 - ① 停止の原因は、事務局運営に関する業務委託費が予算化されなかったためか(?)
 - ② この背景は、市は川崎重工等への発注の案件の中に「3R協働活動プラットフォーム関連費用」は含まれていると考えているが、川崎重工側は提案事項の中に入っていないのだから受注費用の中には含まれていないと解釈しているようだ。
 - ③ したがって、市側が3R協働プラットフォーム関連の予算を付けなければ、NPO法人東海道・吉原宿は3R協働プラットフォームを先に進め事はしないということか?

3. 小野由美子市議、9月定例会(10/5)で、「環境学習・環境啓発施設開設準備における今後の展開について」等の一般質問を行った。当該部分に関連する質疑応答は以下の通り。
 - ① 質問:平成28年度の3R協働活動プラットフォームの成果と、2年目に入っていまだ何の動きがない理由と、今後の方針はどのようになっているのか?
 - ② 回答:環境学習・環境啓発施設の建設工事につきましては、新環境クリーンセンター整備運営事業の範囲に含めており、本年度は、川崎重工業グループの協力企業が、施設の企画と基本設計を行い、来年度、詳細設計を行っていく予定であります。

竣工は、ごみ処理施設と同時期の平成32年9月末と計画しており、施設供用開始後、指定管理者による運営管理を行うものとし、協力企業が優先交渉権者となっております。

本施設の整備や運営につきましては、検討段階から市民の皆様に関心を持っていただき、主体的な参加を得ながら進めていくことが重要であることから、昨年度は、3R協働活動プラットフォーム立ち上げ支援業務委託いたしました。

「3R協働活動」とは、市民・事業者・市とが協働して廃棄物の発生・排出抑制の施策であるリデュース、リユース、リサイクル、いわゆる3Rの活動について実践していくものであります。

3R協働活動プラットフォームにつきましては、人が集まり交差する、駅のプラットフォームをイメージしており、環境学習・環境啓発施設の整備と運営に係る課題の解決に向け、市民の皆様が積極的に関わり、それぞれ得意とするネットワークや知恵を活かし、

話し合うための場と定義しております。

本業務は市民団体に委託し、チラシ、ポスターの作製やSNSの開設、市民アンケートの実施のほか、市のウェブサイト及び広報紙等を用いて市民へ周知を行い、趣旨に賛同していただいた29人の方々と、プラットフォームの会議を2回開催いたしました。

成果といたしましては、受注した市民団体のネットワークを活用して行った声掛けやPR活動により、ごみ問題に関心のある方だけでなく、おもちゃの修理を趣味としている方や、観光ボランティアガイドなど、幅広い市民の方々の参加を得られ、市民主体で3R協働活動を推進していく手がかりが得られたことであると考えております。

本年度は、協力企業が基本設計を行うにあたり、プラットフォームの参加者と意見交換を行うこととしており、進め方について様々な角度から検討してまいりました。

協力企業は、将来的な展望として、市民協働やごみ問題に関して知識や経験を有する市内の複数のNPOと連携して運営体制を構築したいと考えており、プラットフォームの参加者との意見交換にあたり、これらのNPOのサポートを受けられるように協力を打診しているところであります。

市といたしましても、将来的な運営体制を見据えて意見交換の体制を整えることは有効であると考えているため、準備が整い次第、意見交換を行う予定であります。

今後の方針につきましては、プラットフォームの参加者が中心となり、指定管理者と協働して3R協働活動を実施していただきたいと考えていることから、参加者の主体性を尊重し、それぞれが得意な分野で活躍できるような運営体制を、協力企業とともに検討してまいります。

4. NPO 法人富士市ごみを考える会に「市民とのつなぎ役」(?)の要請

- ① 市より、環境学習・環境啓発施設委託企業(クリーン工房)から、現在話し合いを行っているNPO 法人東海道・吉原宿に加え、地元でごみ減量に携わってきたNPO 法人とも話し合いたいとのことで、NPO 法人富士市のごみを考える会に話し合いの場を持ちたいとの要請があった。
- ② 本要請の背景には、先の市議会での小野議員との質疑とともに、指定管理者として優先交渉権者のクリーン工房としては、環境学習・環境啓発施設の将来的な運営体制として、クリーン工房、東海道・吉原宿、富士市のごみを考える会の3者のJVを想定しているように見受けられた。

※参考資料:[クリーン工房からの回答書](#)(8/29)

- ③ この要請を受け、ごみを考える会は内部で検討の結果、まずは、これに至った経緯の説明を受けることとした。
- ④ 話し合いの場(11/20)では、市から、
 - 将来の運営体制イメージ
 - プラットホームの方向性(制度化)
 - プロジェクトチームの位置付けや狙い
 - 今後の進め方

等につき、資料「[環境学習・環境啓発に関する意見交換\(市からの説明資料\)](#)」を基に説明を受けた。

- ⑥ しかし、ごみを考える会としては、「会としては市の説明を了承できず、4 者会議の場への参加を見合わせる」こととしたが、3R 協働活動プラットフォームの動向を注視するため、会員の一部分が個人の資格で今後の会合に参加することとした。

5. 平成 29 年度 第 1 回&第 2 回 意見交換会開催(2018/1/15~2018/2/16)

- ① 3R 協働活動プラットフォーム委託事業者の NPO 法人東海道・吉原宿動かず、NPO 富士市のごみを考える会にも参画要請するも動かず、止む無く(?), 市が主催で意見交換会を開催せざるを得なくなった。
- ② 第 1 回目は、新環境クリーンセンター循環啓発棟(修理再生エリア・余熱利用体験エリア)の基本設計に対する市民の意見聴取が行われた。市民の意見をより多く引き出すためにワークシートやペアトークといった参加型の進行方式がとられた。また、現時点の市民参加の状況確認や運営方法を考えるにあたって参考になる様な話題提供ならびにアンケート等が行われた。

主要内容は、以下の通り。

- 3R 協働活動プラットフォーム 平成 28 年度活動報告
 - 新環境クリーンセンター併設施設(余熱利用施設、環境啓発施設)基本設計図
 - 意見交換
 - アンケート
- ③ 第 1 回目の意見交換会を受けて、「[より良き環境啓発施設建設に向けて](#)」と題し、今後の進め方につき、私案を提起した(1/16)
- ④ 第 2 回目は、第1回意見交換の回答ならびに運営方法について検討を始めるための情報提供が行われた。前回同様、市民の意見をより多く引き出すためにワークシートや ペアトークといった参加型の進行方式に加え、KP 法(紙芝居プレゼンテーション)により、説明内容の見える化等が行われた。

主要内容は、以下の通り。

- 第 1 回 意見交換会時のご意見・ご質問等への回答について
 - 施設全体平面図、内観イメージ図
 - 運営管理の方法についての市の考え方
 - 環境学習施設と事業者・市民の関わり(先行事例紹介)
 - ワークシート&アンケート
- ⑤ 第 2 回目の意見交換会の最後に、アドバイザーの坂本氏から、市に呼びかけられて集まり、意見を言うだけではなく、市民が話し合う機会を作る必要がある。また集まった市民がどんな風にオープンまで活動していくか「活動計画」を作成する必要もある。運営を担う市民の育成や運営方法に対する意見聴取は市の役割としてもそのサポートして、市民・企業・行政での協働で進めていきたい。そのための市民が自発的に集まる機会を作りたいという呼びかけがあった。
- ⑥ それを受けて、市民が自発的に集まる機会を作るための呼びかけ文章の作成や日程調整をする世話役・調整役の募集があり、立候補者が 1 名あった。この方がさらに自然関係、温暖化関係で活動している人に働きかけてもらい、自然関係から、さらに 1 名の世話役・調整役が加わった。

6. 市民だけの意見交換会開催(2018/3/31)

- ① 平成 29 年度第 2 回意見交換会を受けて、世話役・調整役と坂本氏の音頭取りで、「市民だけの意見交換会」を開催された。
 主要内容は以下の通り。
- 本会開催の背景・経緯
 - 新環境クリーンセンター建設に関する市と地元との協定書締結から現在に至る経緯
 - 意見交換・質疑応答
- ② 最初から参加している人からみると 今回が 5 回目となる意見交換会、今回も初めての参加者が多く、経緯・内容(事業プログラム)が判らないということで、入り口論に終始しました。今後も、会合を開くごとに、新しい人の参加、初めてでなくとも経緯を十分理解(勉強してこない)していない人等のために、経緯・内容の話に時間を割かなければならないことに終始するのではないかという危惧感が出た。

7. 事前説明会の開催(4/27)

- ① そこで、主要団体・個人に対し、今までの経緯、オープンの際に実施したらどうかと提案されている事業プログラム案等を説明する機会を設けることとした。
- ② 主要説明内容は以下の通り。
- 環境学習・環境啓発施設建設に向けてのこれまでの経緯
 - 新環境クリーンセンター環境学習・環境啓発計画
 - 環境学習・環境啓発施設の概要(平面図、道泉図、内観イメージ図、外観イメージ図等)
- ③ 説明会では、予想通り、種々の疑問・要望等が出た。
 質疑の内容は「[事前説明会 説明・質疑応答要旨](#)」を参照されたい。

8. 平成 30 年度上期(第 1 回～第 3 回)意見交換会開催(2018/5/17～2018/7/18)

- ① 昨年度に引き続き、新環境クリーンセンター循環啓発棟に関する市民との意見交換会。今年度上期は、環境学習施設に絞って運営や準備すべき什器備品等に関する意見聴取と、「市民が主役」の施設としての運営主体づくりを目指して、3回の意見交換会が行われた。
- ② 下期 各会議の主要内容は以下の通り。

回数	市民人数	主要内容
第 1 回	27	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度の意見交換会の進め方について(坂本氏提案) ● 運営の基本的考え方について(優先交渉権者より) ● 活動計画づくりのアイデア出し
第 2 回	21	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境啓発施設について(受注者からの施設説明) ● 活動計画づくりのアイデア出し
第 3 回	17	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 2 回意見交換会における市民意見・質問内容に対する回答 ● オープンに向けた活動計画づくり

- ③ 第 1 回目意見交換会で坂本氏から「今年度の意見交換会の進め方について」の中で提示された「活動計画の具体的なイメージ」には、環境学習施設オープンまでにやらなければならないことが具体的に記載されていた。

	H30 上期	H30 下期	H31	H32 (準備)	H32 (開館)
施設			運営詳細 相手に合わせた展示解説や案内 ボランティア育成	オープン準備	オープン後運営
広く一般市民に向けて		例) エコライフフェアで施設のPR		連動	
準備チーム		基本計画勉強 プログラム勉強 理念等言葉化 イベント出展 展示品のサンプル	しくみづくり プログラムづくり 人づくり 事業計画づくり 市民組織、サポート体制づくり		
意見交換会	①課題、②方針 ③スケジュール	発展			

※時間が短いので各回の間には市民会議の開催を支援（市民間の合意形成、自発的な行動づくり、仲間づくり）

- ④ 第 3 回目の意見交換会においては、「活動計画シート」なる具体的課題とその実施スケジュール表の様式が提示された。
しかし、結局これもいまだにこの「活動計画シート」は作成されていないし、このような形で推進されているようには思えない。

9. 市民有志自主開催の意見交換会が 3 回開られた(2018/8/7~2018/9/13)

- ① 第 3 回の意見交換会において、「オープンに向けた活動についての活動計画づくり」の意見交換に際し、以下の 3 つのテーマで話し合った。

- 理念と組織体制
- 展示やプログラム、ボランティア育成、施設の運営
- 環境フェアや市民への広報活動

このうちの「理念と組織体制」のグループが当日のみでは話が煮詰まらなかったということで、意見交換会を自主開催した。

- ② 私は、この 3 回の意見交換会の 2 回目にしか参加しなかったが、この市民有志自主開催の意見交換会に対し、「[8/22 の意見交換会に参加して思ったこと](#)」と題し、弊意を開示した。

- ③ 3 回目の意見交換会では、

- 「環境学習施設の目的」の共有化
- 「推進体制」イメージ(案)の提起
- 「準備事務局」設置の次回意見交換会での提案

等につき意見交換が行われ、今後の意見交換会の進め方として、市民サイドの意見の集約化を図るための組織体制(みんなの会という全体会議一個別のアイテムでの分科会、とりまとめ窓口としての準備事務局)のイメージが提案された。

- ④ 先に坂本氏より提案され、当初 2 名でスタートした「世話役・調整役」は、その位置づけ・任務等が不明確であったため、今回新たに提案された「準備事務局」には参加しなかった。

10. 平成 30 年度下期(第 4 回～第 7 回)意見交換会開催(2018/9/27～2019/2/19)

- ① 下期は、上期と同様大きく2部構成の議題とし、前半は、森林環境創造ゾーン(ビオトープ)や屋外啓発ゾーンに関する説明と意見聴取、後半は第 3 回意見交換会以降の市民の動きを共有したり、「市民が主役」の施設を目指すために、不明確な部分につき、全体で意見交換を行った。
- ② 下期 各会議の主要内容は以下の通り。

回数	市民人数	主要内容
第 4 回	14	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林環境創造ゾーン(ビオトープ)と屋外啓発ゾーンの紹介 ● オープンに向けての活動計画づくり①
第 5 回	12	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林環境創造ゾーン(ビオトープ)と屋外啓発ゾーンの基本設計に関する意見交換 ● オープンに向けての活動計画づくり②
第 6 回	21	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア登録制度について①
第 7 回	15	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア登録制度について②

11. 運営&活動 WG 開催(クリーン工房主催)(2018/10/31～2019/3/25)

- ① 本 WG は、環境学習施設の「優先交渉権者」のクリーン工房が主催する WG で、平成 30 年度、6 回開催された。運営活動 WG と呼称されているが、「施設の運営について」と「施設での活動について」の内容に大別されるので、事実上、「運営」&「活動」WG であり、今期は「施設での活動(施設で何をやるか)について」の部分が主要課題となった。

主要内容は以下の通り。

回数	市民人数	主要内容
第 1 回	12	<ul style="list-style-type: none"> ● WG 活動の流れについて ● 諸元表(プログラム内容や備品内容についてまとめたもの)について ● 今後のスケジュールについて
第 2 回	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 先進事例(豊田市 eco-T)見学の件 ● 新環境クリーンセンター建設現場見学の件 ● 諸元表についての質疑
第 3 回	8	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラム内容とその進め方について①
第 4 回	12	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラム内容とその進め方について②
第 5 回	11	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラム内容に基づく設備・備品の確定について①
第 6 回	10	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラム内容に基づく設備・備品の確定について② ● 今後のスケジュールについて(みんなの会への参加)

- ③ 諸元表検討については、まずは「プログラム内容」を詰め、それを受けての必要「備品」の確定という段取りを踏んだ。
- ④ 市の「要求水準書」に基づき、「活動プログラム進捗一覧表」を作成、「プログラム内容」とそれに必要な「什器・備品の内容」確認がほぼ完了した。
- ⑤ 一方、「施設の運営について」の部分は、平成 31 年度検討の予定であったが、この部分も令和 2 年 6 月の市議会での指定管理者指名決定後に繰り越されている。

12. 意見交換会への市民の参加者が減少しているため、市長への手紙を提出(2018/12/10)

- ① 2020 年 10 月市民主体の運営でオープンを目指している環境学習施設、市民主体の運営を目指し市民との意見交換会が進められている。

現在、市民との意見交換会は、市主催の「意見交換会」、準備事務局主催の「みんなの会」、クリーン工房主催の「運営活動 WG」、3 つの場で進められている。これらの意見交換会は、会を追うごとに参加市民が減少しているため、一度、市当局の然るべき幹部がこの会に出席し、実態を自身で確認し、このままでよいかどうかをご判断いただきたいと、「市長への手紙」を出した。

※「[市長への手紙](#)」全文(提出時以降の参加市民数追記)

- ② 12 月 25 日市長より回答書をいただいた。回答要旨は、「みんなの会の準備事務局も設置され、今後は市民の参加体制が整ってくる」ということであった。

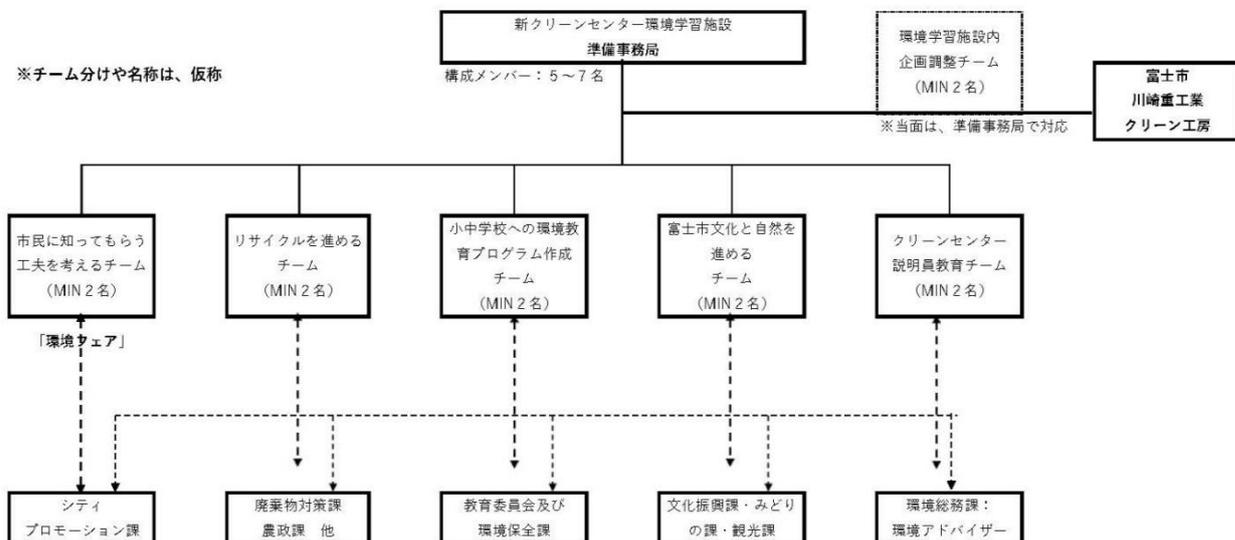
※「[市長への手紙の回答](#)」

- ③ しかし、当初提出した「市長への手紙」にその後の市民参加者数を追記したが、事実是一向に増加はしていない。準備事務局員の 5 人を除くと一般市民の参加者は 5 人程度の時が多い。これで市民の意見を聞いているといえるのだろうか？

13. みんなの会開催(2018/10/3～2019/12/11)

- ① 第 3 回の「市民有志自主開催の意見交換会」で提案された組織体制イメージ図(下図)によれば、この会議は、市民サイドの全体会議の位置付けのように思われるが、結果からみると内容的には分科会のイメージ(個別のアイテムの意見交換会)であったと思う。

＜推進体制のイメージ図＞



回数	市民 人数	主要内容
第1回	9	<ul style="list-style-type: none"> ● みんな(各人)が環境学習施設で行いたいことはなにか ● 準備事務局のミッションはなにか
準備事務局設立		
第2回	9	<ul style="list-style-type: none"> ● 準備事務局でやることリストの作成 ● 「環境フェア」への参加について
第3回	11	<ul style="list-style-type: none"> ● 「環境フェア」の振り返り
第4回	12	<ul style="list-style-type: none"> ● キラーコンテンツを考えよう
第5回	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 「環境学習施設の仕様書」について
第6回	7	<ul style="list-style-type: none"> ● こんな施設にしたいを言葉にしよう ● イメージカラーを決めよう
第7回	5	<ul style="list-style-type: none"> ● みんなの会への参加者募集のチラシを作ろう
第8回	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛称募集のチラシを作ろう
第9回	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設利用のルールを考えよう
第10回	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 開始時のピオトープはどんなものが良いか
第11回	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光ルートと結び付けよう
第12回	6	<ul style="list-style-type: none"> ● こんな本を買ってほしい
第13回	23	<ul style="list-style-type: none"> ● 新環境クリーンセンター建設現場 及び現環境クリーンセンター見学会見学
第14回	10	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に関心の高い高校生が望む環境学習施設とは、 どのような展示・講座があるか
第15回	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 「修理再生エリア」(環境学習施設)の什器等について
第16回	8	<ul style="list-style-type: none"> ● 公害の展示を考えよう
第17回	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 「おとな祭り」と「環境フェア」について考えよう
第18回	6	<ul style="list-style-type: none"> ● 「おとな祭り」と「環境フェア」の資料を選ぼう ● 「みんなの会」取りまとめ①
第19回		<ul style="list-style-type: none"> ● 「みんなの会」取りまとめ②
第20回		<ul style="list-style-type: none"> ● 環境フェアのアピール法 ● 小学4年生が環境について学ぶ・考えるのに見合った 展示・講座
第21回		<ul style="list-style-type: none"> ● 「みんなの会」総まとめ
第22回		<ul style="list-style-type: none"> ● 「リユース食器」について ● 「コケリウム」を作ろう開催報告 ● 「おとな祭り」の反省と「環境フェア」に向けて」
第23回		<ul style="list-style-type: none"> ● 続・講演会や講座についてのアイデア出し
第24回	7	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定管理者が決まるまでの市民対話の場について <p>※今回で、準備事務局解散。以後は個別アイテムの分科会のみ</p>

- ③ 「みんなの会」の開催を通して実施できたのは、
見学会として、
- eco-T 見学会
 - 新環境クリーンセンター見学会
- 市民への PR の場への出展として、
- 「おとな祭り」への出展
 - 「環境フェア」への出展
- オープン時の展示制作ワークショップとして、
- 「季節をテーマにしたポストカードをつくろう!」(天候不良で中止)
 - 「富士の自然が詰まったコケリウムを作ろう!」
 - 「廃ペットボトルを使って工作しよう!」(2020/2/22 実施予定)
- のみであり、オープン後の 3R 協働活動の主力テーマ(運営活動 WG で議論された事業プログラム)はほとんど実施できていない。
- ④ しかし、第 24 回(2019/12/11)をもって、「みんなの会」準備事務局は解散、今後は「みんなの会」は開催せず、傘下の分科会(推進体制のイメージ図中のチーム)を開催することとしているが、現段階では、どのチームが開催されるか何も予告されてはいない。